第６回　知的障害者の住まい検討部会　議事録	
日　　時	平成 27 年 12 月 22 日（火）
開催場所	関内中央ビル５階　特別会議室
出 席 者	赤川委員、五浦委員、浮貝委員、神田委員、齊藤委員、志賀委員、宍倉委員、八島委員、渡邉委員
開催形態	公開
議　　題	議題 (1) 地域移行及び地域生活支援に向けた拠点イメージについて (2) 最終報告書取りまとめに向けた方向性について (3) その他
議　　事	―　開会　― ・これまでの議論から、拠点としては行動障害に特化した専門的なものが必要という意見もあり、２次相談との兼ね合いやＧＨの設置方法などについてもいくつかの相違点がある。また、相談についても、行動障害に特化した相談、各区での支援の共通化、拠点からのアウトリーチなど、それぞれ思い描いているものがある。 ・横浜市の規模を考えたら各区に２か所くらいの拠点は必要だと思うし、何よりも般化させなければ意味がない。モデル事業をやって、そこにしか予算が付けられないからそこで終わり、だと意味がないのではないかと思う。 ・般化させることが待機者の解消にもつながるということができるのではないかと考えるので、それらが担保できるのであれば、展開の仕方は様々あるのではないか。 ・入所施設の役割もあるので、そことのすみわけも必要だと思う。全てをまとめて行うのは難しいのではないか。 ・生活が崩れた人という方の数は少ないかもしれないが一定程度いて、ＧＨでの生活は難しいという方もいる。拠点からＧＨへの地域移行については、落ち着いて、ある程度の支援方法が共通化されてから移行できるという形ではないと、特に小規模の事業所は持たないと思う。 ・具体的に進めていく段階では、医療職をどうするかなどのハードルの高い課題が出てくると思う。 ・現在検討をしている２次相談機関のミドルステイと、拠点で想定しているミドルステイとの兼ね合いも出てくるか。 ・どのような施設がどのような形で実施するかは置いておいて、コンサルテーションやその支援の質を管理するための、例えば研修といった、この２本の柱は、拠点としては欠かせないものではないか。 ・行動障害の方の支援は一定程度確立しているけれども、やり方が分からないというところが大きい。今、私がフォローに入っているのは、コンサルテーションというよりは、支援の共通のシートを作って、それを一緒に使いこなしていく、学んでいくという形である。そういった支援効果を積み上げて

	いくことが必要だと思う。箱物より、中身が大切である。 ・個人的には、徐々に育てていくべき組織として、センター的な機能を持ったものがどこかの組織に付随していても良いので、１か所あって、そこでパイロット事業としてまずはスタートさせることが必要だと思う。10 年後、20 年後先を見据えた展開が必要である。 ・好事例、失敗事例を集約して積み上げる仕組みがないので、横浜としての支援基準も作れない。事例として、小規模、中規模、大規模それぞれの数法人からでも良いから、とにかくスタートさせて、事例を積み上げ、スケール感が違う事業所でもできるということを示していくことが必要だと思う。 ・研修必要という認識は一致している。ただ、研修に行きたいけれど、現場がもたない、それが現実だと思う。拠点の研修機能というところでは、そこまで踏み込んで考えていかないと、成り立たなくなるのではないか。 ・法人間を超える仕組みを作るということは、法人のカラーの違いということもあるし、現場の人はかなり疲弊しているので研修を受けて終わるということを痛切に感じているところだ。進め方はかなり丁寧に行う必要があると思う。 ・入所施設のことを考えずに、この拠点の話が進んで行くと、入所を無くしても良いのではないかという雰囲気が出てくるような気がする。単に拠点にコンサルテーション等の機能を付けたとしても、入所施設に目を向けてもらえなければ、意味がないと思う。 ・拠点という名称ではあるが、そこに困った人が集まってくるというものではなく、地域生活を支える社会資源自体を支えていくことが重要ということか。 ・支援の質の評価は確かに大事である。ただし、それはあくまでも支援している側からの評価になるということを意識しないといけないと思う。行動障害が収まったことは間違いない効果だが、支援の効果というのは誰が判断するのか、それは本人以外ない。支援者が判断してはいけないということを言いたいのではなく、生きているのは本人なのだから、本人の納得と満足で見た支援の結果や効果を判断するというシステムが必要だと思う。 ・私達が「それでいいの」という納得と満足ではなく、本人の納得と満足である。それを客観的に作り上げることがとても重要である。 ・質が低下すれば、行動面には必ず出てきて、支援の質として積み上げたものがあれば、ある程度の判断ができる。今の家族の対応を含めた事例を取集して、何故、今そのような支援になって、そのような質になっているかを研究して提案できるようになることが必要ではないか。 ・支援の質の評価ということころでは、万能なものではないが、バインランドというツールがある。これは、支援区分やＩＱでみるのではなく、適応行動で見るというところに特徴がある。メリットは心理職ではない支援者でも取れるということと、自閉症の方を、できる・できないではなく、適応行動から質として図れるものがある。

	・本人や保護者の方の自己決定というものは重要な一方、支援者の中で自己決定を違う形で捉えている方もいると思う。障害のある方は、未だに自己実現するための環境が整っていないので、支援者としてはその環境調整に注力していきたい。 ・拠点として集約化するよりは、全体に般化させるための仕組みが必要になるということか。その全体への般化をある程度優先させていくことを考えると、居住機能はどのような形で考えていくことが良いか。 ・拠点での評価が出るまでの期限は必要だと思いますが、この図のまま行くと、例えば「ＧＨでの生活が大丈夫」という評価を受けた後に、行く場所がないということになってしまわないか。 ・１～２年の評価期間が終了すれば、コンサルテーションなどの機能を抜いて、そのまま通常のＧＨとしての運営になるという形もあるのではないか。 ・行動障害のある方の生活が安定して地域生活に出して、ＧＨが受けることになるとなった時に、受け入れるＧＨにもインセンチブが働く要素はあると思う。区分の重たい方であれば、それなりの給付費も入ってくると思うし、居宅介護などが関われば、マンパワーは意外と少なくて済むのではないか。 ・有期限で何かしらをやったとしても、実際には目詰まりになってしまうのではないか。やはり、生活する場が無いということが一つ問題なのである。 ・拠点として有期限の機能を持って、行動障害ＧＨは有期限ではなく、生活の場として作っていくことを想定している。拠点の有期限の居住機能で対応する方が、どのくらいいるのかによって、そのあり方は変わってくるとのではないか。 ・最初から行動障害対応ＧＨでやらない理由というのは何なのか。 ・行動援護対応に特化したＧＨが市内に何か所も必要だとは感じていない。拠点がバックアップするので、既存の社会資源の中で各法人に頑張ってもらう形でも良いと思う。 ・ＧＨの入居者が５人いれば、５人とも生活の仕方が違うと思う。それを一つのサービスの中だけでやろうとすることに無理があるのではないか。この人にはこのサービスを付ける、この人にはこのサービスはいらない、そのようにサービスの選択の自由度を高めていく必要があると思う。 ・２次相談支援機関はそもそも支援者を支援する機関である。この拠点の独自の支援機能を見ていると、完全ではないにしても機能として重なる部分があると感じる。横浜市は資源がかなりあるので、それらをうまく組み合わせていくことが必要なのではないか。 ・少なくとも居住の場を作っていかないといけないということで、その為の装置として拠点を作っていかなければならないという共通認識はできているのではないか。その形として、現在はＧＨの形が必要というのが一つ有力かもしれないが、その居住機能が将来的にはアパートになるかもしれないし、時代が許せば入所施設ということもあるかもしれない。 ・支援が足りないということは、そもそも箱を作っても解決しないと思う。

	資源を作るか作らないかということではなく、その肝は中身。行動障害への強力なバックアップがある、というように、そのＧＨをやりたくなるような、法人としても参入しやすいようなものを作らないといけない。 ・行動障害支援センターのような運営自体はしないけれど、しっかりとＧＨをバックアップして、徐々にそのバックアップが切れてもＧＨが自立して安定した支援ができるようにしていくという形が現実的なのかもしれない。 ・ハードとしての行動障害対応ＧＨではなく、パッケージとしてのＧＨということか。その際のバックアップ期間の期限などは必要になってくるか。 ・バックアップの期間として、集中的には１～２年というところだと思うし、その後のフォロー期間があっても良いのかなと思う。既存のホームでもバックアップ機能を欲しがっているところがあるので、そのパッケージへの誘因は少なからずあるのではないか。 ・横浜市独自の支援として、どのような時にどのような支援があるのかというものをしっかりと示していくことが必要だと思います。 ・段階的にデータとって事例を積み上げないと進まないのではないか。既存のＧＨがバックアップを欲しがっているのだとするならば、バックアップを行ってどのような効果が出たのか、バインランドを使って適応行動がどのくらい上がったのかを分析して考えていくことが必要である。無いところから拠点を作り上げるためには、実績作りは絶対に必要だと思います。そうしないと、制度として成り立っていかないと思う。 ・研修について、横浜市でやるのならば、アウトリーチの仕組みを含めたフォローアップをしていく仕組みが必要であり、そこでしっかりと事例を積み上げていくことが必要だと思う。 ・強力に介入していく、バックアップしていく機関とフォローアップで少し見ていくという機関の両方が必要だと思うし、そのように進めていかないと横浜市の基準を作り上げるのは難しいのではないか。 ・横浜市には多くの法人があるので、そこに介入ということは難しいかもしれないが、フォローアップという形であれば、事例を積み上げていくということはそこまで難しいことではないかもしれない。 ・本検討部会で立派な報告書を作成することが目的ではないと思う。共通している部分が多くあると思うので、予算立てとして必要だと思うものは、予算化できるような構成にしていきたい。 ―　次回日程を確認して、散会　―